

石からできた名刺

印刷業の美臚堂(岡谷市湖畔)は、石からできた名刺を取り扱っている。製造の過程で一般的な紙の名刺に比べ、1箱(100枚)で約10ℓの水資源が保全できるという、SDGs(持続

美臚堂が取り扱い

可能な開発目標)の取り組みにつながるとしてアピールしている。

TBM(東京)が開発し、製造する環境配慮型素材「LTM EX(ライメックス)」を活用。石灰石を主原料にした素材で、

SDGs取り組みに提案 100枚で10ℓ水資源保全

紙の代替として使用でき、製造には木や水をほとんど使わないという。

美臚堂は2022年にSDGs宣言を行うとともに、県SDGs推進企業に登録され、環境に優しいものづくりなどを進めている。その一環で2年ほど前からライメックスの名刺を社内に導入したところ、差し出した相手に驚かれることが多く、SDGsの取り組みに加えて営業活動などの際の話題性にもなる」と社外にも提案することにした。

見た目は紙の名刺と変わらず、価格は1割ほど高めながら、破れにくく、耐久性に優れていることも特徴という。今後は要望があれば、パンフレットやダイレクトメールなどへもライメックスを活用していきたい考え。

秦光洋社長は「SDGs達成に向けて社会的に貢献できる。営業ツールとしてもインパクトがある」と話している。問い合わせは美臚堂(電話0266・22・3562)へ。

(手塚洋一)

美臚堂が取り扱っている石灰石を主原料にした名刺

